

平成二十九年年度 中学生の「税についての作文」

東京国税局管内納税貯蓄組合連合会 会長賞

「故郷へ納税」

柏市立柏第四中学校 三年 秋田 楓果

みなさんは、「ふるさと納税」という言葉を聞いたことがありますか。

私は、コマージュナルなどでふるさと納税という言葉を目にしたことはありましたが、豪華な特産物がもらえるということだけで、実際、どのような制度のものなのか、あまり詳しく知りませんでした。

しかし、授業で税金を学ぶようになり、ふるさと納税がどのようなものか興味がわき、調べてみることにしました。

ふるさと納税を一言で言うと、自分を育ててくれたふるさとに、自分の意思で納税ができる制度だという事です。ふるさと納税には生まれ育ったふるさとに対する恩返しをするという側面があります。地方から就職のために都会に出てきた人には、そんな恩返しがあったという気持ちがあるのではないかと、税制を通じてふるさとへ貢献する仕組みはできないか。そのような想いのもと、ふるさと納税は誕生したそうです。

ふるさと納税には、三つの大きな意義があります。一つ目は、納税者が寄付先を選択することができるため、その使われ方を考えるきっかけとなるということです。それは、税に対する意識が高まり、納税の大切さを考えられる貴重な機会になります。

二つ目は、生まれ故郷はもちろん、お世話になった、応援したいと思う地域へ力になることです。その地域に力になった分だけ地域環境の整備や育み、自然を守ることに繋がっていきます。

三つ目は、自治体が国民に取り組みをアピールすることで、ふるさと納税を呼びかけ自治体間の競争が進むことです。競争というところから良い印象を受けませんが、これは自治体の特長やあり方を考えるきっかけにもなります。

このように、納税者と自治体がお互いに高めあえる関係となり良いことが多い気もしますが、批判の声もあがっています。

それは、豪華すぎる返礼品で過度な寄付獲得競争につながっており、「税収格差の是正」という本来の制度趣旨に外れているということです。また、住んでいる場所以外の自治体に寄付をすれば、当然住んでいる自治体に納められるはずだった税金が納められず、その自治体の税収は減ることになります。

私は、自分が住んでいる柏市で医療や教育などさまざまな住民サービスを受けてこまで育ってきました。しかし、あと何年か後には就職するために都会へ行き、そこで暮らすかも知れません。そんな時、故郷である柏に少しでも貢献できたら、自分も自治体も得られるものが増えていくと思います。そのためにふるさと納税があり地方を変化させる一歩にもなると思います。自分自身でどこに税金を払いどの様に税金が使われているのか。税に対して興味を持ち考えていく事が私たち一人一人に大切な事だと私は思うのです。